

非常時用ゲルの作製

北見医師会
茗荷耳鼻咽喉科医院

茗 荷 秀 昭

東日本大震災を機に、わが家では災害に対する備えをしています。食糧、水、衣類、日用品等を、キャンプ用品と一緒に離れの車庫に保管しています。保管だけではいざという時に役に立たないと困るので、普段から実際に使用し、問題点を把握しておくことが大切です。昨年、耐寒 -26°C の寝袋を購入。テストのために、2月に屋外で一晩過ごそうと試みましたが、あまりの寒さに断念しました。厳冬期に、ふらっと自宅から出て野宿など無謀な話です。テントではCO中毒が怖く、暖房が取れません。しかし、実際の災害時には、これに近い状況となるので、ストーブが焚ける小屋が必要だ、と考えていると、テレビでモンゴルの番組を放送しており、そうだ、これだ、ゲルを作ろう。移動式住居なので、簡単に、設営分解収納が可能で、暖も取れる。ネットで40万円ほどのキットがありましたが高すぎです。モンゴルから直輸入という手もあるようですが、現物を見ないで買うのも抵抗があります。ならば、自作で安くあげてしまえ。条件は、1. 中で薪ストーブが焚けること、2. 家族4人が寝られて、煮炊きするスペースが取れること、3. 簡単に設営分解ができて車庫に収納できること、4. 移動できるようワンボックスカーに積載可能なこと。以上を満たして、予算10万円で作製することにしました。

ゲルは中心の柱から、円形の側壁へ、天井を支える梁が放射状に伸びる構造で、この骨組に防水断熱シートを固定すれば出来上がりです。大きさは天井の梁が一番長くなるので、車載できる長さで3m程度、従ってゲルの直径は6mとします。側面は、ガーデニングに使うラティスを20枚ホームセンターで購入。中心の支柱は、自立する4本脚を 2×4 材で作製。梁はラティス1枚につき2本とし、胴縁を42本購入。ドアは廃材で自作。骨組分で6万円。自転車のリムに42個のL字金具を取付け、それを支柱上部に固定し、ラティス上部にもL字金具を取付け、そこに梁を渡すようにしました。側面と天井は、外張りにブルーシートをテントロープで固定し、内張りに梱包材のプチプチがロール状で売っているので、これをタッカーで止めることにしました。ブルーシートとロープとプチプチ合わせて3万円。その他、ドアの取っ手や金具類で1万円。なんとか予算通り10万円であがりました。

下準備ができたので、寒いうちに暖房の効果等を確かめるために、春分の日の子供の連休に実際に設営してみました。直径6mなので、その辺に立てるわけにもいかず、連休を利用して医院の駐車場に設営し、性能試験(完成焼肉パーティー、寝泊まり、他)の後、分解して車庫に収納することにしました。土曜日、半日の診療が終わり、助人3人が集まります。まず、直径6mの円を描き、中心に支柱を組上げ、円に沿ってラティスを並べ縛ります。支柱とラティスに梁を渡します。ラティス、梁の連結はすべてスズランテープで結束し、骨組の完成です。次に、側面にブルーシートを固定します。天井は反対側からロープでシートを引き上げ覆います。最後に支柱にメガネ石を取り付け、煙突を通して完成です。所要時間は4時間。内張りは分解時に破けるので今回は省略です。完成を祝してビールで乾杯しながら薪ストーブを焚きます。改めて内部を見るとかなり広く、10人寝てもまだ余裕がありそうです。16畳ほどあるので、災害時にも十分対応できると思われます。外気温は -3°C ですが、内部は 12°C 、薪ストーブはこの広さでも十分有効です。換気が悪いので煙が充満して焼肉には不向きです。家族は泊まる気もなく、私1人で泊まります。夜中、薪が燃え尽き、寒くなって目が覚めます。ストーブにいっぱい薪を詰め込み、寝ることを2回繰り返し、朝を迎えます。

2日目、風が出てきましたが、ゲルはびくともしません。薪ストーブを燃やしながら、見においでと、方々に電話を掛けます。連休3日目、残念ですが、駐車場を空けるため、ゲルを解体します。3人で1時間ほどで解体し、車庫に収納できました。

この後、4月14日に熊本地震が発生しました。家の中には居られない、避難所は混み合っただけでプライバシーも保てない、自家用車はエコノミークラス症候群の危険がある。このような状況の中で、今回準備したゲルは非常に役立つだろうと、報道を見るごとに思います。地震列島日本ですから、ここが安全などないでしょう。日頃から皆が備えることで、いざという時に、お互いに助け合えることが重要と考えます。

